



風俗文選
序目
一



五
行

本
森
朝
日
滋

五
行
本
森
朝
日
滋



五老の文庫

五老井許六選



風俗文選序

月澤 律師 李由述

飛蝶乃羽友子。五老井の許六。滑稽骨
 俳諧新古乃文章を拾ひ集めく風
 俗文選と題も。むしやま。と新文選集め
 て。この序を

本朝の文粹といつて。我およ。け文粹也。

本朝の人を述べて。文乃作す。い

風俗文選

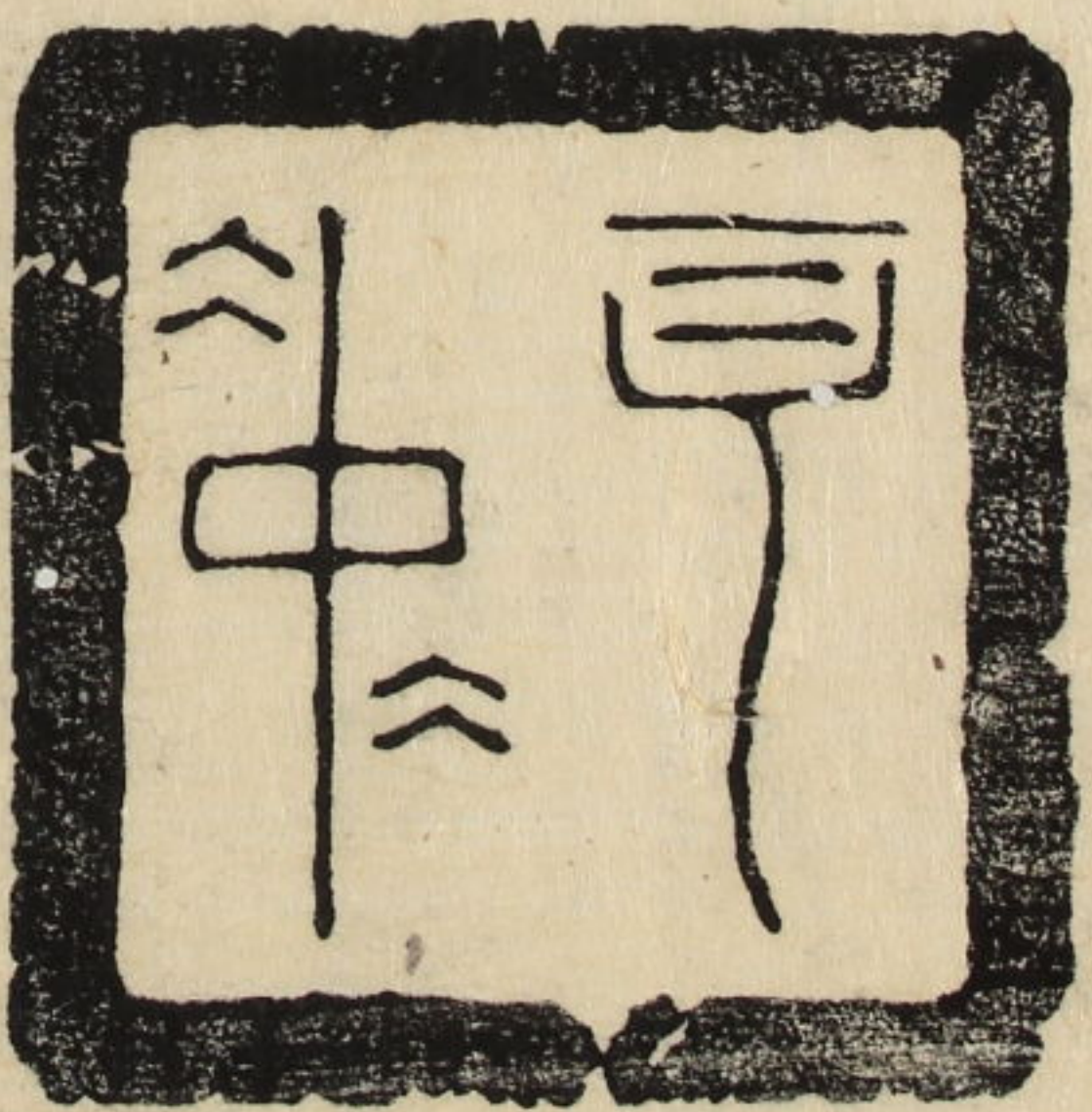
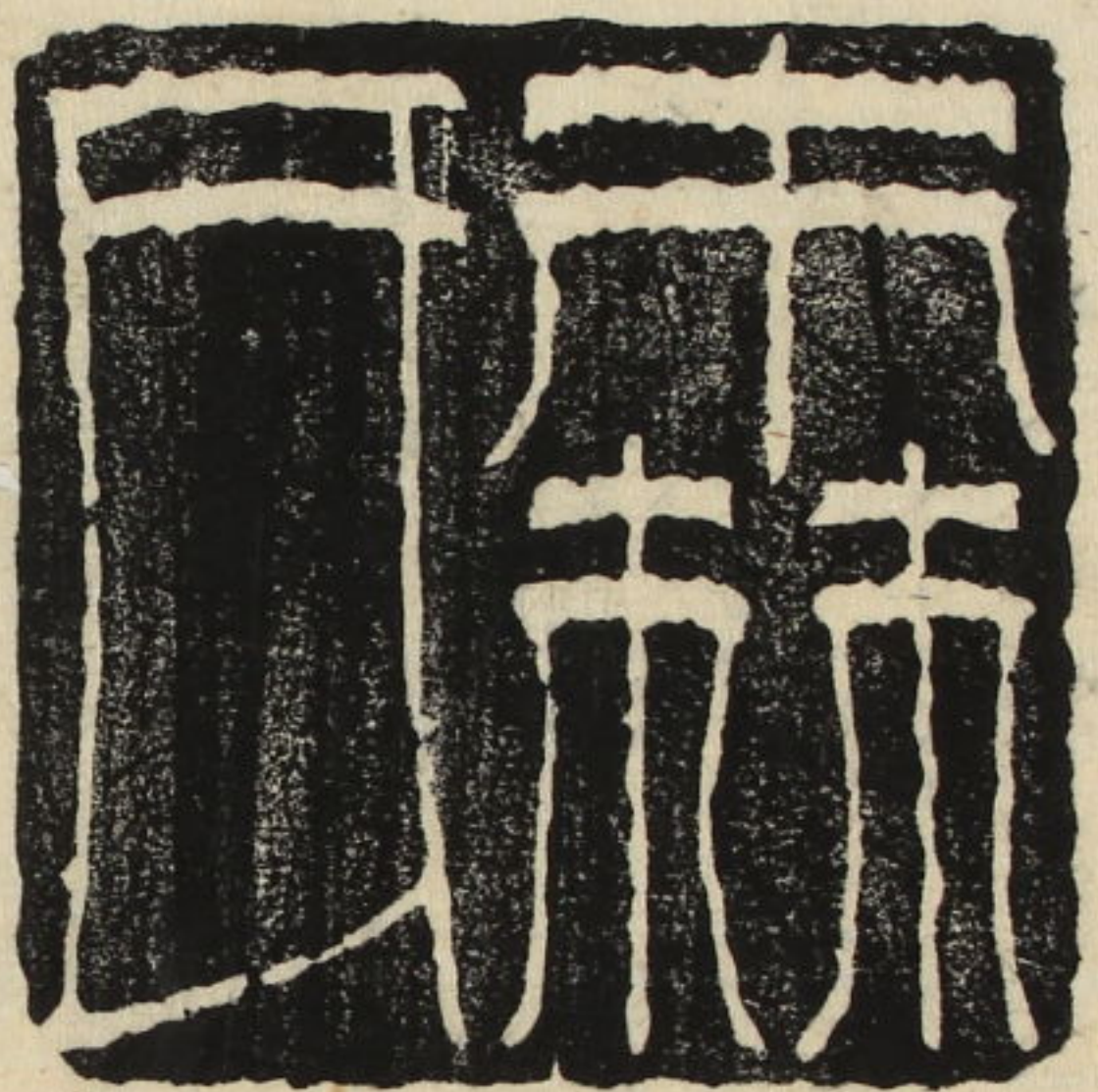
自序

五老井許六選

文々世貞道ノ器也孔子も筆力ありハ
 出礼を学べしと云ふ吾邦禮首のむし
 より大和詞々文筆。庫子より車子
 みてむらさきと世ふおこあはく云集。
 おほさくら女家の筆子して源氏按

長乃平しくし男女共中試はくし實ハ
 奇よきしへき道にまた終へし其
 歌連哥の文法めて誹諧文章早ん
 格式一言もたし先師芭蕉翁始て
 一格試をくし氣韻生動をあらはせし
 たし鄙言漢字をまどくわも
 心々吾野きし回の花み葉をうらや
 み和可の清志試をて難波津し細き
 よあをたし中志るべし縦横自在を
 畫し中しきしひし趣を平しし本
 たりての童蒙の丸の抱はくし中落く
 果の松坂を仕舞しを世志甚し下し事
 多しべし今も中あらし文章魁々二十
 文の一百十有餘篇皆く俳諧文章なり

山神をのみこしはてはつとていふにや
をを井神子の撰に集て書方永之に
自序して風俗文選といふ云尔



風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文柳

燒蚊辭

嵐蘭

銚扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類

南都賦

汝村

鎌倉賦

許六

吉野賦

丈柳

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐籬

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去來

旅賦

許六

揚揮豆賦

毛統

四蹂廬賦

李由

閑居賦

汝村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

箕虫說

素堂

柴賣說

九兆

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛釋說

万子

卍字藤說

程巳

草刈說

露川

山羊說

吾仲

嘲霄惑說

毛純

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由
許六

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

宴柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪合序

許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉 番椒序

野坡

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

銘類

札銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鯨銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

文艸誄

去來

去來誄

許六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌

五首

文類

俳諧發願文

浪化

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考

吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東嶺傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳 支考

靈虫傳

去來

和氣傳 李由

直指傳

許六

碑類

壺碑

芭蕉

笠塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

文冊

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角

讀佛骨表

厚為

陳情表

支考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誹諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱迪

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼兔

義少年画讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝母贊

許六

書類

院艷書

月蓮上人報書

聖賢

Blank lined writing area

感とてまゝにや。重いとていへるが如し。凡れはなす。一
るり中子となし。されどもゆが画ハ精神徹入。等
端をぬきよ。とて遠なるを。等がぐる。あゝある
や。凡れはな。昔昔をまぬら。流よさくして用る
し。あぶなるゆらゆら。ありたなる。あおほし。ほ
る。画とやの如しをまひ。一それも。一秋くら。一
あつて。志くもわね。一いをさ。と。あまい。信ら。と。や
されむ。い。い。と。あを。か。さ。し。と。を。を。死。て。さ。し。を。
も。ど。わ。ら。う。一。中。ま。り。あ。秋。は。古。人。の。心。を。し。め。ぬ。
言。人。の。一。り。と。あ。を。し。め。ぬ。と。南。山。の。心。
あ。の。心。も。も。と。て。こ。わ。凡。れ。も。又。一。秋。は。回。一。と。い。ふ。
灯。を。り。と。て。あ。の。心。も。お。ら。り。て。日。の。心。の。心。

飄辞

許六

○男麻か。く。は。い。と。利。と。ま。る。後。後。の。心。も。も。と。て。こ。わ。
人。あ。る。も。ま。ら。つ。た。元。乃。秋。も。ま。ら。つ。た。の。心。も。も。と。て。こ。わ。
上。甲。列。乃。細。も。今。と。ま。る。カ。一。す。あ。の。心。も。も。と。て。こ。わ。
一。さ。ら。上。の。心。も。も。と。て。こ。わ。あ。の。心。も。も。と。て。こ。わ。
一。も。も。と。て。こ。わ。あ。の。心。も。も。と。て。こ。わ。

文

三

世に東花坊... とき世情のうき名をわけてむ。ふんふん
しと、後一志くおこなひし人也。

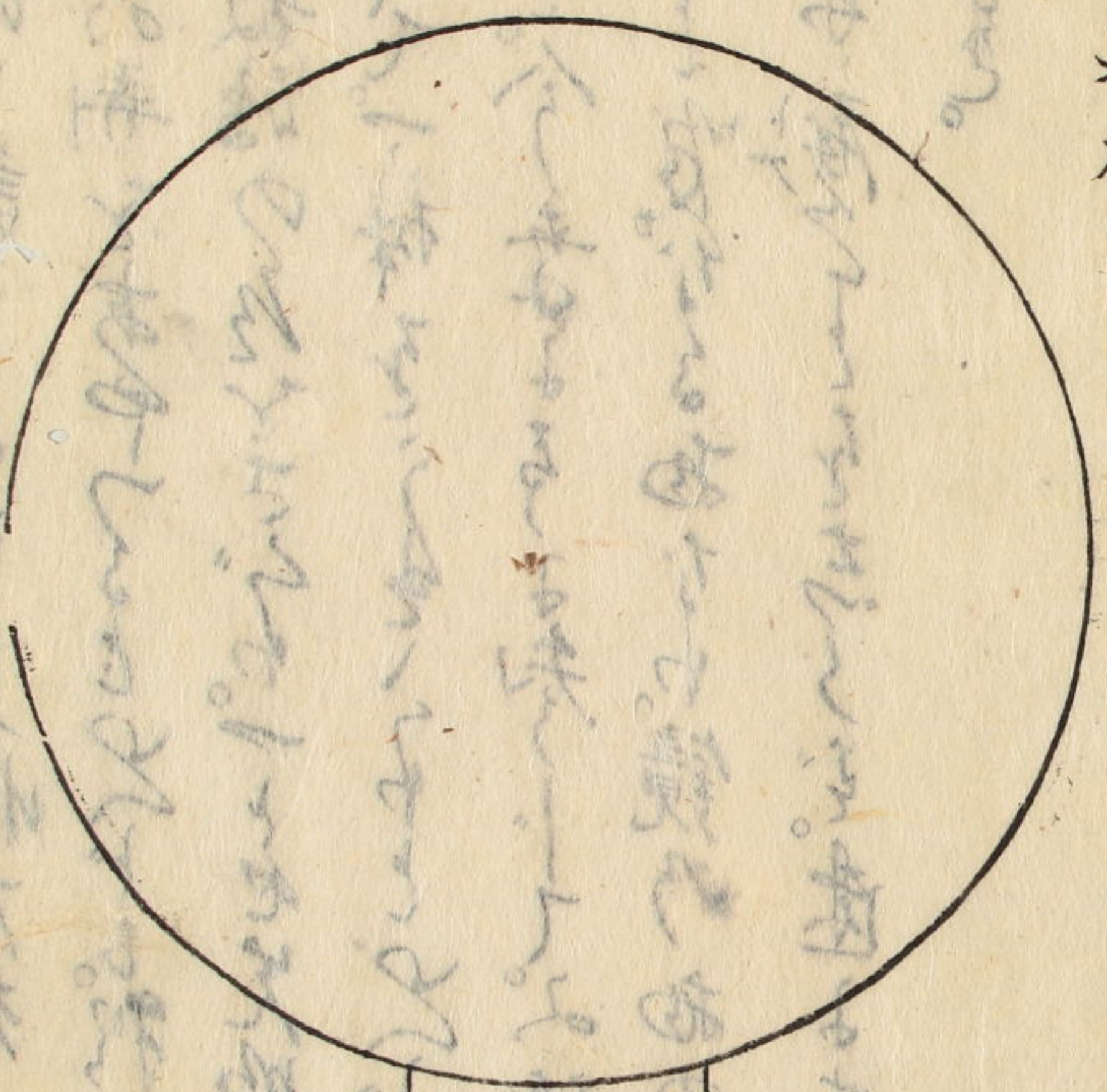
凡ゆる川之よよれもや陸知記

示^ス僧古鏡^ニ辞

李由

しおくよ傍あり。古鏡といふ。その業よりして。東海の濱
あそぶ。老に濃列開なり。がど志津孫六が^{キタヒ}襪を得て、
紫電^{シデン}白^{ハク}中^{チュウ}編^{ヘン}とく。ニス乃ひりや振いざんせ。天下
流あひくく。顔ももこれありん。さるむむい。はる今
乃紫刀と名ひし。信密師の花の鏡もうち見とど合

ら系村の澤よびは終家ありや。しよもまらるる根
孫子^{カ子}澤^{サハ}乃を加道^{カミチ}がよま。い。ま。の。よ。も。ま。ら。る。く。
ふも又九一。



かけ合ても細びを唱奇を。や也乃他也。かくて寒の中
 と。甚好の彼者。意夜をとり。彼乃外。七所乃。二昧を
 めがらぬ。そ縁乃。手ゆきと。きつが。乃。漸。去。も。ヨ。ウ。ガ。家
 へ。い。い。と。い。つ。も。き。と。た。ら。く。ま。の。よ。茶。茶。を。さ。し。た。路
 小。路。に。出。く。南。の。業。ら。わ。ぬ。れ。ど。さ。梅。日。ト。れ。が。ぞ。ら。ぬ
 阿。も。神。托。と。せ。曲。翠。を。り。さ。れ。く。あ。る。い。い。さ。や。ふ。を
 十。り。或。ら。中。の。か。く。ま。法。明。た。ぬ。も。が。新。衣。の。を。れ
 じ。と。れ。も。甚。好。ま。あ。る。も。お。ほ。く。ら。あ。は。な。の。羽。打
 ち。ぐ。そ。ふ。級。を。つ。け。く。ま。れ。ど。月。お。ち。は。た。た。く。思
 誰。人。も。具。し。は。る。そ。れ。は。甚。角。法。務。と。い。ふ。の。あ。り。と
 しく。神。を。と。や。し。と。吟。し。ら。も。ひ。ら。と。あ。る。也
 ぞ。わ。る。も。お。ち。け。く。寝。て。く。世。ら。が。つ。り。ま。い。わ。れ。お
 後。一。し。り。て。紅。乃。ま。い。る。横。お。ら。ぬ。乳。し。わ。か。し。び
 そ。る。ぞ。り。て。お。ま。さ。つ。ま。た。た。は。は。と。足。下。の。れ。た。ま
 さら。も。あ。ゆ。を。お。く。神。て。い。わ。今。も。や。わ。わ。ら。ん。と。あ。の
 長。味。乃。甚。も。た。ら。つ。神。を。く。お。し。中。の。ま。い。ら。る。も
 け。あ。ら。な。る。も。し。し。も。け。わ。を。た。

四季の辞

許六

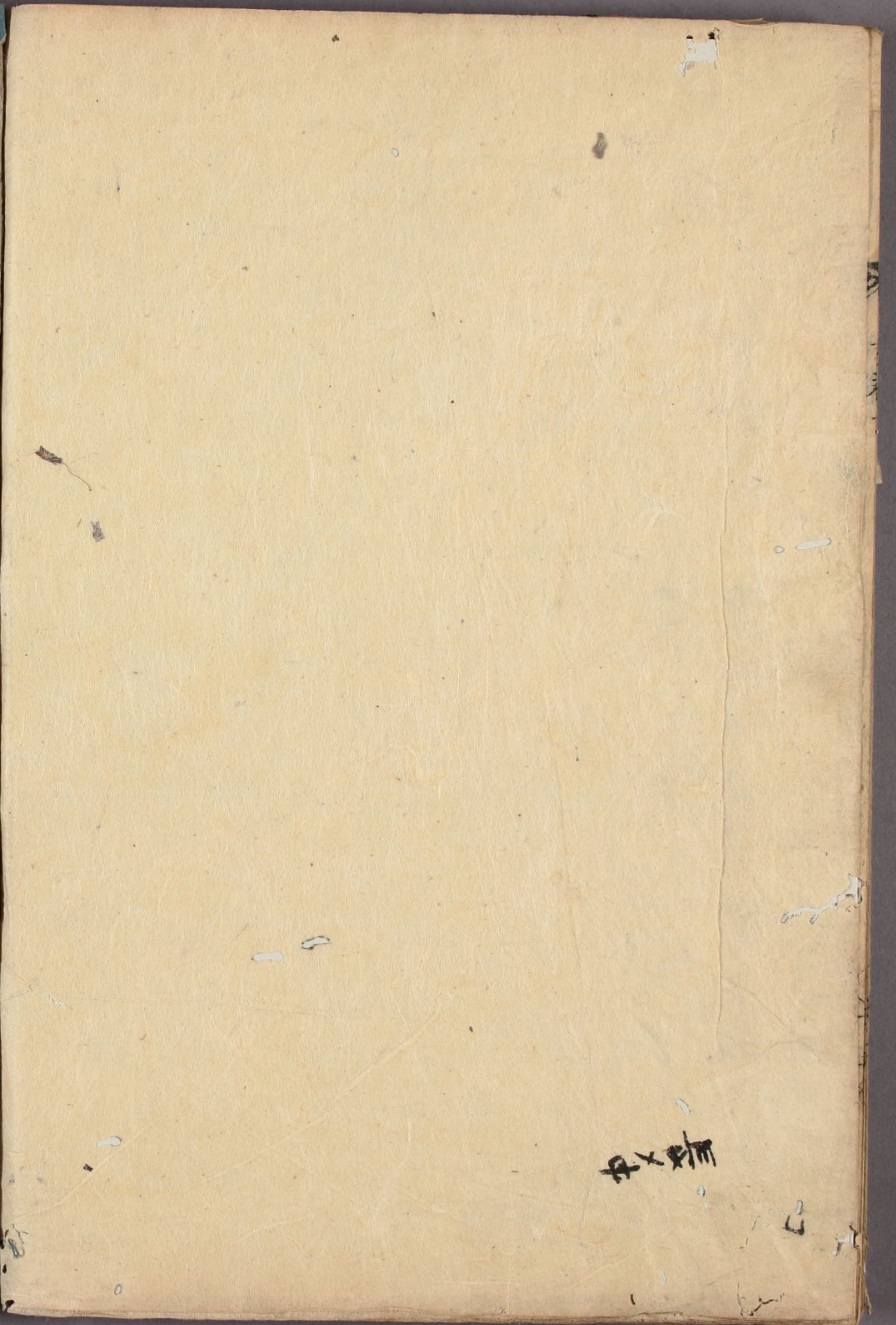
古今和歌文章。謂。四季者。多。美。假。令。姿。用。能。諸。詞。也。
 凡。其。情。和。歌。文。章。不。可。更。今。此。辞。全。篇。以。財。宝。こ。上。
 盡。四。時。情。是。誹。諧。也。

行幸乃。至。夜。半。へ。い。て。ぞ。り。も。と。と。乃。至。夜。半。あ。く。ま
 子。の。波。乃。是。も。を。也。一。は。揚。子。柳。柳。体。も。の。時。

まはらちの神也。上は口から一はよりのあはれ神をさる。れ
もさるる子ながる。今やうはけを結ぶあはれをさるる人け。
別して三日乃還るなりとも。きまぐあはれなるるる合
し。



3 補
A



中
大
書

